



Clayteam アカデミックシンポジウム

「ハイブリッド材料」研究開発のブレークスルーを振り返る

—— クレーポリマーナノコンポジットとメソポーラスシリカ

日時 2015年7月17日(金) 10:00～16:30(受付 9:30～)
 場所 産総研臨海副都心センター 別館(バイオ・IT融合研究棟) 11階会議室1(定員80名)
 主催 産総研化学プロセス研究部門 Clayteam
 共催 日本化学会低次元系光機能材料研究会
 参加料無料

1980年代に報告されたナイロンとモンモリロナイトとの複合材料は、樹脂材料の改質の一手法として定着し、様々な樹脂に、多様な方法を駆使して、所望の状態でフィラーを分散させるべく、多くの基礎研究と実用商品開発が行われ、現在も行われている。また1990年に始まった界面活性剤を鑄型としたメソポーラス材料の研究は、特別な装置を必要としないソフト化学的な方法で合成出来ること、化学的設計性のある規則性ナノ空間という特徴を活かして、精密・多様な構造制御に基づく多くの基礎応用研究が行われ、商品も世に出始めている。

このようにクレーポリマーナノコンポジットとメソポーラス材料は従来の材料の概念を超えた構造的特徴と、その機能と拡張性故に、合成化学、分析化学、物性評価、材料開発の研究者を刺激し、材料化学の研究分野を活性化してきた。本講演会では、クレーポリマーナノコンポジットとメソポーラス材料の黎明期から現在に至る20数年間の短くも濃密な研究開発を振り返り、これら材料の今後と、次のブレークスルーに思いを馳せるべく企画した。

[プログラム] (敬称略)

10:00-10:10 開会挨拶

【座長】中戸晃之 (九州工業大学)

10:10-10:50【講演1】「メソポーラス材料の合成と機能開拓」

稲垣伸二 豊田中央研究所シニアフェロー

10:50-11:30【講演2】「メソポーラスマテリアルのナノ空間材料としての可能性」

南部宏暢 太陽化学株式会社 研究推進部長

11:30-12:10【講演3】「ナノ空間材料のホストゲスト化学」

小川 誠 VISTEC

12:10-13:20 休憩

【座長】小川 誠 (VISTEC)

13:20-14:20【特別講演】「粘土・有機高分子・多孔体・中性子の接点」

福嶋喜章 総合科学研究機構(CROSS) 東海事業センター サイエンスコーディネーター

14:20-15:00【講演4】「量子ビームで観る拘束系高分子」

金谷治治 京都大学化学研究所、高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

15:00-15:10 休憩

【座長】稲垣伸二 (豊田中央研究所)

15:10-15:50【講演5】「クレー比率の高いクレーポリマーコンポジット膜の開発」

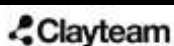
蛭名武雄 産業技術総合研究所化学プロセス研究部門首席研究員

15:50-16:30【講演6】「ナイロンクレイハイブリッドの開発とその後の進展」

臼杵有光 豊田中央研究所シニアフェロー

16:30-16:40 閉会挨拶

(内容が変更されることがございますのでご了承ください)



Clayteam事務局

〒983-8551 宮城県仙台市宮城野区苦竹4丁目2-1

国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター 機能素材プロセッシンググループ内

Phone&Fax 022-237-3057 E-mail: clayteam-aist-ml@aist.go.jp